

7 県内で初めて確認された肉用牛のヨーネ病発生事例

東部家畜保健衛生所

○藤本彩子・弘中由子・古澤 剛

中部家畜保健衛生所

遠藤泰治・大石大樹（現 西部家畜保健衛生所）

ヨーネ病は、撲滅対象疾病として全国的にサーベイランスを実施している。

本県では平成 11 年に初発後、平成 19 年までに乳用牛 23 頭で発生した。肉用牛は平成 30 年度から検査を開始し、今回、県内で初めて患畜を確認したので報告する。

1 発生の概要等

農場：肉用牛繁殖農場（飼養頭数：繁殖雌牛 75 頭）、牛舎数 3 棟、放牧地あり。

患畜：黒毛和種、雌、10 歳、平成 24 年に県外から導入し、臨床症状なし。令和 4 年 6 月にサーベイランスで摘発した。

防疫対応：関係機関と協力し牛舎消毒を実施した。また、牛のヨーネ病防疫対策要領に基づき同居牛検査を 4 回実施（抗体検査：延べ 292 頭、ヨーニン検査：延べ 96 頭）し、全頭陰性。患畜の続発はなく、発生から 1 年後の令和 5 年 6 月に清浄化した。

2 材料及び方法

1) 剖検 定法に基づき実施。

2) 細菌学的検査 ①リアルタイム PCR：腸内容 6 検体（空腸、回腸（回盲部から 1m・50 cm・30 cm・回盲部末端）、直腸）、リンパ節 4 検体（乳房上、空腸・回腸腸間膜、回盲部）で、ヨーネ病検査マニュアルに基づき実施。②分離培養：患畜の確定検査時の糞便で、液体培地を用いて実施。

3) 病理組織学的検査 腸管 5 検体（空腸、回腸 4 検体）、リンパ節 4 検体（同、細菌学的検査）、肝臓で、定法に基づき標本作製後、ヘマトキシリン・エオジン染色、Ziehl-Neelsen 染色を実施。

3 成績

1) 剖検 回腸粘膜は発赤、軽度肥厚。腸間膜及び回盲部リンパ節は軽度腫大。

2) 細菌学的検査 ①リアルタイム PCR：ヨーネ菌遺伝子量は、腸内容において回腸（回盲部から 30 cm）で最多（1,415.58pg/2.5 μ l）、リンパ節において回腸腸間膜リンパ節で最多（207.7735pg/2.5 μ l）。②分離培養：陽性。

3) 病理組織学的検査 回腸は、粘膜固有層及び粘膜下織に類上皮細胞の中等度浸潤及び多核巨細胞がみられ、これらの細胞質内に多数の抗酸菌を伴う肉芽腫性回腸炎がみられた。リンパ節（回腸腸間膜、回盲部）は、肉芽腫性リンパ節炎がみられた。

4 考察

今回の患畜は、臨床症状は認められなかったが、病性鑑定でヨーネ病に特徴的な結果が得られ、発症前の摘発と推察された。さらに、過去の患畜は分離培養陰性であったが、今回、初めて陽性となった。今後もサーベイランス検査を行い、本病の侵入防止に努めたい。